2023年度入学者選抜〈学校推薦型選抜（公募制）A日程・11月19日〉【50分】

作文試験問題

学芸学部：子ども教育学科

受験選択がなかったため掲載しておりません。

2023年度入学者選抜〈学校推薦型選抜（公募制）B日程・12月17日〉【50分】

作文試験問題

学芸学部：子ども教育学科

課題・意見文を書く

問　題

小学校や保育所の多くは昼食に給食を導入しています。どの学校や園も工夫して子どもたちが楽しく食事をし、完食できるように工夫していますが、どうしても残してしまう子どももいます。その子どもたちに対する指導についても学校や園によって異なりますが、大別すると食べきるまで食べさせる指導と、無理はさせず残させる指導に分かれているようです。

このことに関し、食べ物を大切にする姿勢は幼少のうちから育てなければならないから、少し無理をしてでも完食させるべき、という考えと、食べるのが苦痛になってしまうのは良くないので、残させるのもやむを得ない、という考え方があります。

あなたは、どちらの考え方を支持しますか。発想材料を参考に、あなた自身の知識や経験などを材料に用いて、どちらの考えを支持するか、**立場を明らかにして**意見文を書きなさい。（どちらを支持したかによって評価に影響はありません）

なお、意見文は次の条件に従って書きなさい。

条　件

① 文章は、必ず「事実」、「意見」、「意見の理由（証明）」の順に、三段落構成で書く。

② 本文は縦書きで、必ず一行25字のマス目に16行以上、28行以内で書くこと。句読点も一字として数える。

③ 最後に、あなたが書いた文章の要旨を三行（75字）以内で書く。

発想材料

・食べたくないものを残すということを良しとすると、偏食やわがままを助長することになる。しつけの一環として完食させるべきだ。

・食べたくないものを食べさせるのは精神面にも良くない。残すのが悪いことと言うように指導されると、給食が苦痛になり登校や登園を渋るようになってしまう。

・園の内外には食べたくても食べられない状況の子どもたちもいる。食べられるありがたさを知り、食べ物を大事にするということも教えなければならないので、自分に与えられた分は食べるという習慣を付けたい。

・もともと食が細い、活動量が少なくて、それ程のカロリーを必要としない、など、子どもも個人個人で状況が異なる。一律に同じ量を食べさせるのは問題があるので、食べられない子には無理強いをしてはいけない。

・家庭では好き嫌いが多く、親の言うことも聞かないが、園や小学校の先生の言うことなら聞くので、そちらで指導して欲しいと保護者から求められることもある。責任を果たすためにも教員・保育者として最後まで食べさせないといけない。

・幼少のうちはおもちゃや他の遊びに気持ちが行って、食事そのものに関心が薄い子どももいる。強制するよりも、まず食べることが楽しいという指導をするべきだ。